

目的 大学生の娘が、父親に対してどのような感情を持っているか、また感情の差異を生みだす要因は何か、をさぐる。さらに、父-娘間の情緒関係と娘の配偶者像との関連についてもふれる。

方法 事例研究のデータをもとに、父親に対する娘の感情として次の4タイプを設定する。①強い愛着(理想、結婚したいタイプ)②愛着(大切にしたい、好感がもてる)③嫌悪(憎しみ、怒り、嫌い、じゃま)④無視(他人のよう、いてもいなくてもよい、どうでもよい)。これらの感情を規定する要因として、父親に対して果たすことが期待されている役割(しつけ手、夫、職業人、稼ぎ手 etc.) セットを考える。調査対象者は、都内とその近郊の短大生454人である。父親の平均年齢は50.3歳。兄弟数は2人が最も多く、核家族が83.3%を占めている。父親の学歴は、高卒が42.1%で最も多く、次が大卒以上の34.8%である。職種は、年齢を反映して、経営・管理職が最も多い。

結果 父親に対して2~3割の者が強い愛着を持っている。そして約8割が父親を大切に思い、6割が好感がもてると答えている。嫌悪や無視の感情を抱いているのは1~2割である。父親が嫌悪や無視の対象になっている場合は、養育期にしつけ手の役割を果たしていない、夫婦関係が悪い、大酒を飲むなどの悪癖がある、稼ぎ手としての役割を母親もかなり担っている、といった特徴が認められた。愛着の場合には、これと反対の傾向を示している。また、愛着型の娘は、父親と同じ特性を配偶者に期待するが、嫌悪・無視型ではそうした傾向は弱い。